

[成果情報名]最適用土診断手法「9マステスト」による鉢花・苗物類の用土診断による生育特性の把握

[要約]最適用土診断手法「9マステスト」を使用して県内で生産されている栽培品目31品目と新規鉢花として期待される実付き鉢物等5品目を診断し、土壌適性を明らかにした。作成したグループ分け体系図により、既存栽培品目の安定生産、新規品目の早期鉢花化が可能となる。

[担当]山梨県総合農業技術センター・高冷地野菜・花き振興セ・岳麓試験地 渡辺 淳

[分類]技術・普及

[背景・ねらい]

花き生産では、単品目多量生産を目的として底面吸水栽培方法が導入され、鉢用土も調整ピート主体の市販用土を使用するなど作業の効率化・省力化が図られた。一方で、本県の花き生産特有の同一ハウス内での多品目多品種生産や、夏期の高温等の気象変動により生産が安定しない場面が多くなってきた。そこで、最適用土診断手法「9マステスト」による鉢花類の用土診断を通じて、生育特性を把握することで既存栽培品目の安定生産および新規品目をいち早く生産できる支援を行う。

[成果の内容・特徴]

1. 供試した36品目を「9マステスト」により生育診断を行った結果を、土壌適応性によりA, B, C, Dの4グループに分類し、さらに排水特性により3グループに分類した。(図2, 図4)
2. Aグループは、特にアルカリ性を嫌い、A1はレモンで保水を好む。A2はベゴニア、パッションフルーツ、バニラで(排水特性)を選ばない。A3はペンタスで保水を好む。
3. Bグループは、中性を好み、B1は、シロタエギク、日々草、カレンジュラ、コーヒーの木で透水を好む。B2はユーカリ、ビオラで排水特性は選ばない。B3は、ケイトウで保水を好む。
4. Cグループは、特に酸性を嫌い、C1は、ゼラニウム、キンギョソウ、ビデンス、クリサムセマムで透水を好む。C2は、コキア、アングロニア、ハボタン、アレナリア、ローリエ、カスミソウ、ラベンダー、ハッサク、シクラメン、ニゲラ、アリッサム、アネモネで排水特性を選ばない。C3はプリムラ、ルピナスで保水を好む。
5. Dグループは、ヒマワリ、サルビア、マリーゴールド、ペチュニア、ビオラで特に土質を選ばない

[成果の活用上の留意点]

1. 標高820mの岳麓試験地での試験。
2. 品種により生育差が生じる可能性があるため栽培前には栽培地でテストを行う。
3. 9マス用土は、自家作成せず当面は技術センターから提供された用土を使用する。

[期待される効果]

1. 既存品目の鉢用土の見直しにより高品質安定生産が可能となる。
2. 新規品目の早期鉢物化に寄与することで、花き農家の経営改善の一助となる。

[具体的データ]

1 酸性・透水	2 酸性・中間	3 酸性・保水
4 中性・透水	5 中性・中間	6 中性・保水
7 アルカリ性・透水	8 アルカリ性・中間	9 アルカリ性・保水



Aグループ		
1	2	3
Bグループ		
1	2	3
Cグループ		
1	2	3

図1 体系图中的の9マステストの配置

図2 9マステストの評価表示方法
※生育評価は生育量(株張り草丈等)、枯死率等の調査結果および主観評価も加味し判断

図3 体型図の配置
土質を選ばないをD

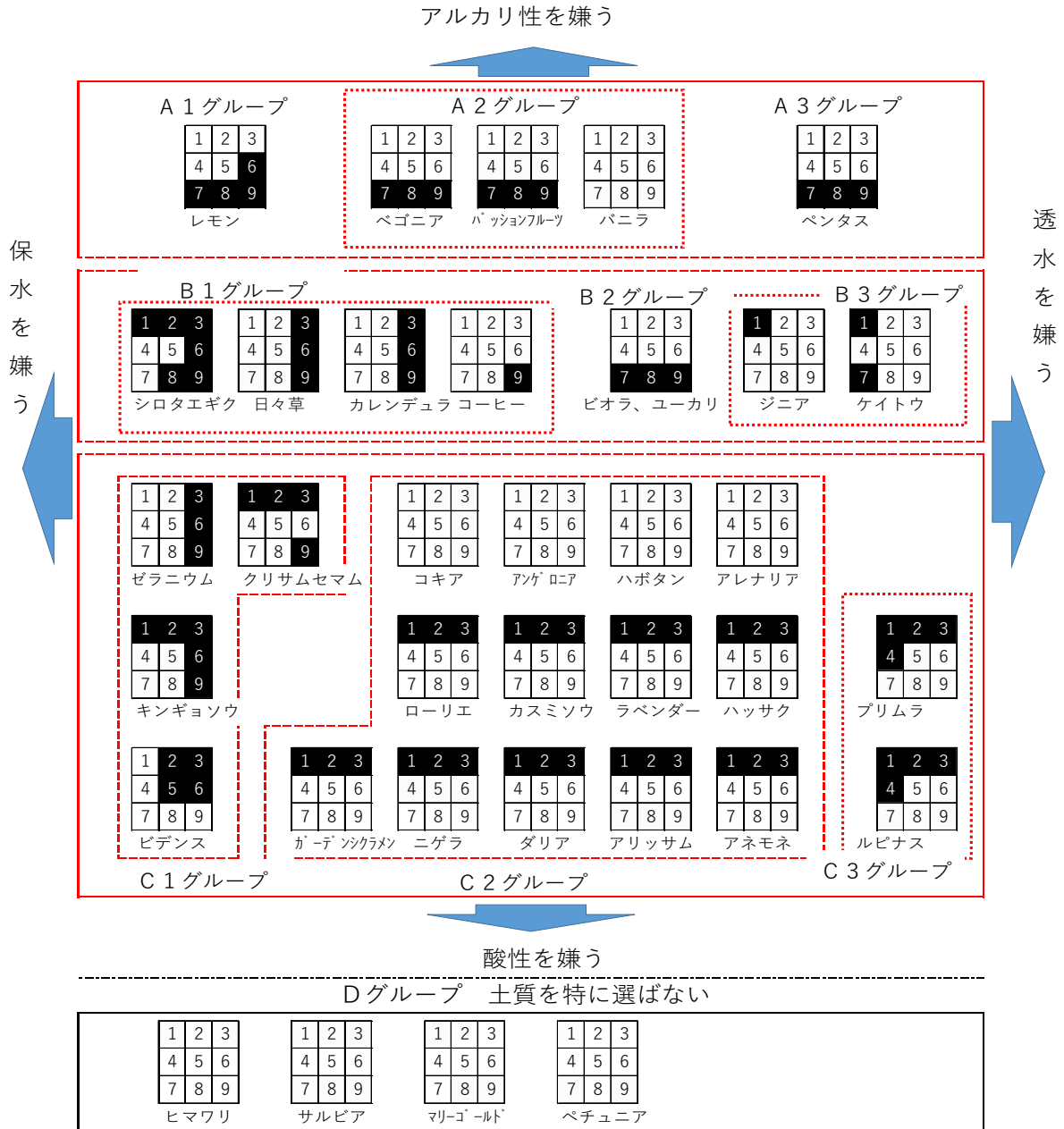


図4 9マステテスト結果によるグループ分け体系図

[その他]

研究課題名：山梨ブランド花きの用土開発による品質向上技術の確立

予算区分：県単 研究期間：2017～2019年度

研究期間：2017～2019年度 研究担当者：渡辺 淳、志村貴大、馬場久美子、岡田淳子